

令和 6 年度揖斐郡教育会研修総会

【シンポジウム発表】

先生方、実践論文優秀賞の受賞、まことにおめでとうございます。

先ほど、審査委員長の中島校長よりご講評いただきましたように、先生方の論文から学ばせていただくことがたくさんありました。先生方のご実践による知見を郡内の先生方で共有していければと思っております。いくつか質問をさせていただきますので、よろしくお願いします。



① まず初めに、論文のテーマや概要。そして、実践論文に取り組もうと思われた動機等をお話してください。

【東小・江崎先生】

- 私は、単元学習計画の明確化・対話活動の工夫を通して、自分の考えをもち、主体的に取り組む国語の授業づくりを目指した実践を行いました。この実践に取り組もうと思った理由は2点あります。
- 1点目に、児童が受け身ではなく、主体的に考え、児童同士の対話の中で学習を深めたりする力が必要だと感じたからです。本校の5年生は、自分の意見をもつことができない児童、小グループでの交流や全体交流に参加できない児童など学習に受け身になる児童が多くいます。そこで、まずは一人一人が自分の意見や問いをもって学習に取り組むことが大切だと思いました。そのために、具体的な導入や、対話活動の工夫をしました。対話活動では、学力による同質グループ、異質グループを学習用グループとして活用しました。そして、対話活動の成立のために、クエスチョンカードを活用したスマールトークを行いました。相槌をうったり、質問をし合うことで、会話に参加することを狙いました。さらに、思考ツールを活用し、言語化する場を多く設定しました。
- 2点目に、本校が研究している国語の授業を自分の授業にも取り入れ、継続して実践していこうという思いがあったからです。昨年度、初任者として東小に赴任しました。初めての経験ばかりで戸惑うことも多くありました。その中で本校が研究している国語の授業について、たくさんの実践を見せて頂きながら、多くのことを学ばせて頂き、国語の授業について考える機会が多くありました。昨年度学んだことを自分の授業にも取り入れ、継続的に実践していこうと思いました。

【揖斐川中・秋江先生】

- 論文のテーマは「AI・ICT アプリケーションを活用した英語発音の一斉指導・個別指導の実践」です。
- 私自身、英語音声について学ぶことの楽しさ、重要性を感じている一方、大量の教科書内容に加えて発音指導をすることについては「時間がない」「一斉指導することは困難である」という現実的な課題が挙げられることから、効率的かつ効果的な発音指導について研究したいと考えました。
- 実践で工夫した点のひとつは ICT の活用です。TEAMS をはじめ、AUDIPO のようなアプリケーション、ウェブサイトを活用することで、発音学習の個別最適化を目指しました。
- 2つ目は、スチューデントティーチャーによる発音チェックです。評価の効率化に加え、生徒同士が自身の感覚を言語化し、仲間と伝え合う様子が見られました。
- また、英語音声とは少し離れますが、TEAMS の投稿機能を学習コミュニティとして活用し、生徒が互いの学びを認め合うことで学習のモチベーション向上を図りました。

【揖斐川中・松浦先生】

- 論文のテーマは、チーム揖斐川で向かう「新しい教師の学びの姿」を具現する校内研修の充実です。
- 昨年度より設置された研修主事という立場から、校内研修を充実させ、学校全体の力を高めたいと考えました。
- 職場の先生方を見渡すと尊敬できる先生方ばかりです。
- 秋江先生もそうですが、教科指導が熱心な先生、自分のカラーを出せる学年主任の先生、進路指導に長けていたり特活指導を牽引していたりする先生、温かくきめ細かく生徒を見届けられる学級経営の素晴らしい若い先生など。
- それぞれ先生方の個性・よさを互いに知り、学び合える研修を通して、レベルアップした学校を目指したかったのが主な理由です。

②次に、実践論文に取り組まれた際の工夫やアピールポイント、子どもたちの変容などをお話してください。

【東小・江崎先生】

- 実践論文に取り組むなかで一番変わったと思うのは児童の姿です。これまで教師や学力が高い児童の話聞いていただけの児童が、単元学習計画を見て、1時間の始めなどに「ぼくの問いはこの時間で解決できそう」とつぶやく児童がいました。

- また、学力による異質グループを活用することで、学力上位の児童は相手に分かってもらえるように伝える姿、自分の考えがまとまっていなくても仲間の考えを聞いて考えをもてた児童の姿、交流を通してもらった意見を全体の前で伝えようとする姿が増えました。さらに、全体交流では仲間の意見に付けたす、同じ意見でも自分の言葉で伝えようとハンドサインを使って挙手をする姿も増えました。
- 教師の働きかけでは、どのグループにどんな支援を行う必要があるのかが分かりやすく、同質のグループで活動を行う際は、学力下位のグループを中心にして支援を行うことができました。一方で学力上位のグループはどんどん次の学習に進んでいけるような指示をしておくことで、自分たちで学習を進めることができました。

【揖斐川中・秋江先生】

- 1番は生徒の発音に対する興味が高まったことです。定期的に授業内で洋楽の書き取りを行っているのですが、非常に人気のアクティビティです。知っている単語でも音が変化し、結合したり、脱落したりして発音されていることが生徒にとっては興味深いようです。現在は英語を好きになるひとつの切り口として、「英語の音声」が生徒の中にあると感じています。
- 私自身、生徒に発音指導をするために音声学・指導法を学び直しました。AIは発音のスコアを出してくれます。しかし、現時点では、その先の指導は教師が行わなければいけません。生徒の発音を評価する力、評価をもとに個に応じたフィードバックをする力がついたと実感しています。

【揖斐川中・松浦先生】

- 実践を工夫した点は、校内研修を企画・運営する際に、即効性が高くかつ具体をイメージしやすいようなケーススタディを組み込んだこと。
- また、お互いの授業を参観し合う際に、生徒のきらめく姿を写真におさめ、月に一度、生徒に投票してもらいNo.1を決めるなど、エンタメ性をもたせたことです。
- 「研修」=「めんどくさい・大変」というイメージがあるかもしれません。
- 一つは、「自分のためになる」+「ちょっと楽しそう」といった要素を組み込んでいくことが大切だと思っています。

② 最後になります。今回の実践論文の取組の中で、先生方ご自身が成長したと思われること。今後にどのように活かしていこうかという展望や抱負をお願いします。

【東小・江崎先生】

- 今回の実践を通して、児童を主体とした授業を展開するために、どこで・どんな手立てをうつのかや、私自身が見通しをもてるようにするために教材研究など、国語の授業について、よく考え、思い切って実践していくきっかけになりました。
- 私自身、教員としても2年目なので、先生方にも教えていただきながら、今回の実践を継続し、国語の本質に関わる資質・能力についてもさらに意識し、どんな対話活動をさせると良いのか、どんなことを目的として交流するのかをよく練って指導していきたいと考えています。
- また、今回の異質・同質グループでの交流の成立は、学級の仲間関係による影響がありました。そこで、安心して自分の考えを伝えられる仲間関係の構築に向けて、学級経営という面からも指導を見直していきたいと思います。

【揖斐川中・秋江先生】

- 今後も、英語教師として生徒が楽しく英語学習に向かうきっかけを与える存在でありたいと思っています。
- 今回の実践では英語音声に焦点を当てましたが、言語学習の出発地点は様々です。文法、単語の成り立ち、英語が話されている国の文化など、生徒の想像の範疇を超える楽しさや驚きを与えることで、生徒は自ら学ぶ意欲を持ち、学習に取り組むと考えています。
- そんな魅力的な学びの場を提供するためには、松浦先生の実践にもリンクすることですが、教師自身が学びをアップデートし続けていくことが大切であると考えています。

【揖斐川中・松浦先生】

- 今回の実践で勉強できたことは、一人の力よりも組織の力の大きさです。一人の10歩より、十人の1歩ということの大切さを実感しています。
- だからこそ、「研修主事って具体的に何するの?」といった曖昧な部分が多い内容の方向性を郡内の先生方にこうやって知っていただいたり、次の学校でも共有して広めていけたりと思っています。

本日は、本当にありがとうございました。また、それぞれの勤務校に戻られましたら、各学校の先生方にいろいろと還元をしていただけると幸いです。では、画面越しにはなりますが、シンポジウムに参加していただきました先生方に大きな拍手をお願いします。